

# 中 世

鎌倉—南北朝—室町—安土桃山時代

## <時代概説>

鎌倉時代の野田市域は、目吹と木野崎の一部が相馬御厨(そうまのみくりや)に属し、その西側一帯は、広く、下河辺庄(しもこうべのしょう)の庄内領となっていたと思われます。

相馬御厨は、平家追討後、千葉介常胤(ちばのすけつねたね)の手中に帰し、第二子の師常に譲渡され、相馬師常とその子孫の所領として伝領されました。嘉元年間(1303~1305)、嫡流にあたる相馬重胤は、陸奥国行方郡(むつのくになめかたぐん)(現福島県南相馬市付近)に下向し、相馬の地を離れています。その後には庶流相馬守谷氏によって治められています。野田とのかかわりは明らかではありません。

下河辺庄については、下河辺義行の子、行平(ゆきひら)によって経営されます。弟の政義以降、次第に弱体化し、歴史の表舞台から消えていきます。

文永12年(1275)の頃より、庄内の多くが金沢北条氏(かなざわほうじょうし)領となり、金沢氏は、のちに、これを称名寺(しょうみょうじ)に寄進しています。寺用配分のなかに、「佐ヶ尾」という地名があり、これは野田市の三ヶ尾であろうといわれています。

宗教関係では、親鸞(しんらん)の孫で異父兄にあたる覚恵およびその子覚如と大谷廟堂の留守職をめぐって争っていた唯善(ゆいぜん)が、鎌倉を経て、中戸へ来ています。のち、寺は本願寺と和解がなり、常敬寺(じょうきょうじ)と称するようになります。元弘の変や南北朝の内乱期に、下河辺庄合戦が行われ戦場となっています。

室町時代に入り、嘉吉元年(1441)に起こった結城合戦の折、下河辺一族が関宿によって結城氏朝(ゆうきうじとも)方に味方し、活躍しています。その後、康正元年(1455)、鎌倉公方足利成氏(かまくらくぼうあしかがしげうじ)が下総国古河(こが)に移り、古河公方(こがくぼう)として山内(やまのうち)・扇谷(おおぎがやつ)両上杉氏に対抗します。時に重臣の築田(やなだ)氏が関宿に入部しています。

やがて、戦国時代に入ると、両上杉氏にかわって小田原北条氏(おだわらほうじょうし)が関東一円に勢力を拡大します。この間、関宿城には、古河公方の高基(たかもと)、晴氏(はるうじ)、義氏(よしうじ)がそれぞれ移座します。特に築田氏は反北条の中心的存在であり、永禄7年(1564)、永禄11年(1568)、天正2年(1574)と、三次にわたる関宿城攻撃を受けています。天正2年に築田氏は、小田原北条氏の軍門に降り、水海城(みずうみじょう)に退いています。

関宿落城後、小田原北条氏は、古河公方領と家臣の配置替えを行っています。野田市域には、土肥次郎、関馬宗勝、野田三郎、小笠原兵庫、芳春院周興などが配されています。

- <コラム>
- [下河辺庄](#)
  - [下河辺氏](#)
  - [築田氏の動向](#)
  - [徳川家康の関東入国と野田市域](#)
  - [中世野田の金石文](#)

年代	主な出来事	
鎌倉時代 (1185～1333)  中期	源頼朝が下総の千葉介常胤や下河辺庄司行平の来援を求め鎌倉入りを果たして、幕府が成立  下河辺庄の下河辺氏が北条氏の被官(御内)となる  <a href="#">&lt;コラム&gt; 下河辺庄</a>  <a href="#">&lt;コラム&gt; 下河辺氏</a>	
南北朝時代 (1333～1392)  至徳3年 (1386)	初代将軍足利尊氏は幕府滅亡後の鎌倉に次子の基氏(もとうじ)を置いた。基氏を鎌倉府の初代として継承されたのが鎌倉公方(かまくらくぼう)  3代将軍足利義満が、鎌倉公方足利氏満(うじみつ)に下河辺庄を与える	称名寺庭園(写真提供 神奈川県立金沢文庫)
室町時代 (1392～1573)  永享10年 (1438) 嘉吉元年 (1441) 文安4年 (1447) 享徳3年 (1454) 康正元年 (1455)	幕府・上杉方と公方足利持氏の間に対立がおこり永享の乱へと発展  結城合戦で下河辺氏は公方派の結城氏朝(うじとも)に味方し活躍  公方支持派が持氏の遺児万寿王丸(まんじゅおうまる)(後の成氏しげうじ)を鎌倉公方に就任させるが、公方と上杉の確執が深まる 足利成氏が上杉憲忠(のりただ)を謀殺する(享徳の乱のはじまり)  足利成氏は本拠地を古河へ移し、以後は古河公方(こがくぼう)と呼ばれる  ◇関宿城の成立 応永年間(1394～1428)築田満助が築城した(『応仁武鑑』)とも、長祿元年(1457)築田成助(しげすけ)が水海城(茨城県総和町)から関宿に移って築城した(『関宿志』)のが始まりとも伝えられるが詳細は不明	
戦国時代 (1467～1573) 永禄7年 (1564) 永禄11年 (1568)	◇新興勢力・戦国大名の台頭 小田原北条氏が相模国、武蔵国、下総国、上総国へ進出  小田原北条氏、築田氏の関宿城を攻撃  第二次関宿城攻撃	
安土桃山時代 (1573～1600)  天正2年 (1574)  天正17年 (1589) 天正18年 (1590)	<a href="#">&lt;コラム&gt; 築田氏の動向</a>  第三次関宿城攻撃 築田氏はついに関宿城を開城、水海城に逃れ衰退  小田原北条氏、古河公方領と家臣の配置換えを行う 野田市域には、土肥次郎、閑馬宗勝、野田三郎、小笠原兵庫、芳春院周興などが配される  関白豊臣秀吉が諸大名に対し北条氏追討を命じる 秀吉軍により小田原城が落城し、小田原北条氏は滅亡 徳川家康、江戸に入部  <a href="#">&lt;コラム&gt; 徳川家康の関東入国と野田市域</a>  <a href="#">&lt;コラム&gt; 中世野田の金石文</a>	関宿城跡   岡部長盛画像 (泉光寺所蔵)